

<b>授業科目名</b>	基礎看護学実習 (2300402)		
<b>時間割名</b>	基礎看護学実習 (70209)		
<b>時間割担当</b>	中馬成子 北島洋子 林文子		
<b>実施期</b>	後期	<b>単位数</b>	2 必修
<b>曜日・時限</b>	集中		

### 授業の目標・概要

既習の知識・技術・態度を統合し、看護過程を用いて対象者を身体的・精神的・社会的な存在として全人的にとらえ、必要な援助を明確にし、個別的な看護実践を行う。一連の過程を評価しよりよい看護を提供することを学び、看護に必要な基本的な実践能力を養う。

### 学習の到達目標

1. 対象者との援助的人間関係を発展することができる。
2. 対象者について看護過程を展開できる
  - 1) 既習学習を活用して対象者をアセスメントする。
  - 2) 看護計画に基づき、看護ケアを実施し評価できる。
3. 実習をとおして、看護職者としての態度を養うことができる。

### 授業方法・形式

指定された病院で患者を受持ち実習する。

### 授業計画

1. グループ編成 1グループは5名程度の学生を編成する。
2. 実習の進め方
  - 1) オリエンテーション
    - (1) 学内オリエンテーション：実習目的・目標、実習方法などのオリエンテーションを受ける
    - (2) 病棟オリエンテーション：病棟別に実習担当者からオリエンテーションを受ける。
  - 2) 事前学習：看護過程の進め方、バイタルサイン測定技術、生活援助技術、疾患に関する学習
  - 3) 学習方法
    - \* 実習は学内演習、実習、成果発表会から構成する。
    - (1) 事前学習(学内演習)：看護過程の方法を振り返る。必要と推測される看護技術を復習する。
3. 実習病棟の主な疾患の学習を深める。
  - (1) 病棟実習：入院中の患者を受持ち、看護過程を用いて看護援助を行う。
  - (2) 成果発表：グループ毎に実習での学びを発表し考察を深める。
- 4) 実習方法
  - \* 実習の詳細については、基礎看護学実習の実習要項に従う。
  - (1) 実習指導者に行動計画を提示し、指導を受ける。
  - (2) 受持ち患者に看護援助を行う。実施時には実習指導者が教員と一緒に行動する。
  - (3) 実施した内容は、所定の記録用紙に記録する。
  - (4) グループリーダーを決めグループメンバーで協力して行動する。
  - (5) 基礎看護学実習における学びを想起しながら、学習の到達目標の達成に向け取り組む。
- 5) カンファレンス
  - (1) 実習における学びや疑問点を発表し、学びの共有化と疑問点を解決しその後に活かす。
  - (2) 実習指導者、教員から指導や助言を得る。
  - (3) 時間、場所、テーマの設定、進行、記録などの運営は学生が行う。

### 成績評価の基準

実習中の学習態度、実習記録、自己学習状況、カンファレンスの参加状況、成果発表会での参加度などを総合的に評価する。

### 準備学習・復習及び授業時間外の課題

患者を受持ち、看護過程を展開し看護援助を行う上で必要な専門基礎科目および専門科目の復習を自主的に行う。

### 履修上のアドバイス及び留意点

本実習で患者を受持ち看護過程を展開するという学びは、今後の実習の基盤になる。実習の目的・目標を十分理解し、能動的に取り組むことにより学びを深める。

### 教材・教科書

人体構造学、人体機能学、疾病治療論、薬理学、栄養と食生活、看護過程演習などで使用した資料、教科書、参考書等を活用する。

### 参考書

必要に応じて、適宜紹介する。